

Vol.52 Autumn & Winter 2025

ウェルビーイング体感マガジン 健康PLUS

HEALTH PLUS

Lifestyle Well-Being Magazine



特集

王妃のお仕度
2025 in 仙台

人生の幸せスイッチ
なりたいたい自分
— 裡なる王妃 & 王の目覚め

薬草百話

秋バテから私たちの身体を護る

「神薬才花苑」の薬草たち





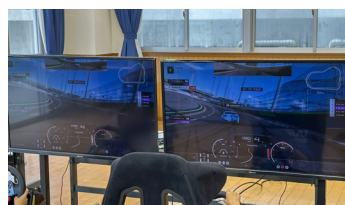
誰かを幸せにする Well-Being Cut a wall out!

真剣に走る子どもたちと夏の大会

この夏、二日間にわたって「グランツールスモ大会」を行いました。初日は予選、翌日は決勝。いつもの活動とは少し違う「特別な二日間」を迎え、子どもたちは朝から目を輝かせていました。

スタートの合図が鳴ると、モニターに映し出されるコースを食い入るように見つめ、真剣な表情でハンドルを握りしめます。驚くほど集中した走りに、大人の私たちも思わず息を呑む場面が何度もありました。レースは白熱し、勝敗が分かれるたびに歓声とため息が交錯します。接戦が続ぎ、最後まで誰が優勝するかわからない展開でした。子どもたちがここまで真剣に遊びに向き合う姿を見られたことは、私にとっても忘れられない経験です。

そして、勝負には必ず「勝ち」と「負け」があります。勝った子は嬉しそうに笑い、負けた子は肩を落としたり、しばらく言葉を失ったり。涙を見せたくない、と壁際で向こうを向いて涙を流していた子もいました。それでも、その悔しさと向き合うこと



真夏のグランツールスモ大会の様子。二日間かけて予選・決勝と楽しみました。トーナメント表は、みんながイラストを描き込んでくれました。※画像内の名前は消えています

こそが大切な学びだと思えます。人生には負けることがつきものです。大事なのは、負けたあとにどう立ち直り、次にどう挑むか。遊びの中でその一端を体験できることは、子どもたちにとって大きな財産になると信じています。

名前を呼んでもらえるようになって

活動を重ねるうちに、子どもたちが私のことを「よっしー」と呼んでくれるようになります。一緒に活動している仲間はいくみん」。親しみを込めて呼んでくれるのは嬉しいことです。

もつとも、ほとんどの場合は「先生」と呼ばれます。私たちは先生ではありませんが、そう呼ばれることに不思議な重みを感じ

じます。それは、子どもたちにとって「大人」として見られている証であり、信頼の形でもあるからです。

一方で、名前を覚えてもらえるということ、子どもたちが長い時間を施設で過ごしているという現実の裏返しでもあります。家庭に戻れる子もいますが、多くは高校卒業まで施設で暮らすのが現状です。その複雑な思いを抱えながらも、私は「自分の名前を呼んでくれる子どもがいる」事に感謝し、子どもたちにとっての安心に繋がりたいと願っています。

友だちへの思いやり

名前もそうなのですが、ある日、ホワイトボードに「友だちへの手紙」を名前を入れて書き合う遊びが始まりました。詳しい内容はここでは紹介できませんが、文字のひとつひとつに相手を思いやる気持ちが込められていました。感謝や承認の言葉が並んでいました。自分が小学生の頃にこんなに素直な言葉を書けたらどうか、と考えさせられたほどです。子どもたちは遊びを通じて、思いやる心を自然に育てているのだと実感しました。

未来への願い

こうした小さな変化や成長は、一度きりの訪問では決して見えません。「また来てくれる」という積み重ねこそが信頼をつくれます。だから私は願うのです。子どもたちには無事に大人になってほしい。そして、自分の育った環境を引け目に感じることなく、しっかりと未来を歩んでほしい。

そのために、活動を組織として育て、いずれば子どもたち自身が大人になってこの活動を引き継ぐ未来を夢見ています。



わずかな差を競い合う、手に汗握る接戦。子どもたちの真剣な表情が会場を熱くしました。周りで見ているみんなも、一緒に応援をしていました。

かたわらの活動を始めてから、気がつけばもう二年と少しが経ちました。最初の頃は右も左もわからず、ただ「やってみよう」という気持ちで始めた取り組みでした。それが今では、毎月のように子どもたちと顔を合わせる時間が当たり前になり、その当たり前の積み重ねが、子どもたちから名前を呼んでもらえる関係や、小さな変化に気づける瞬間を生んでいるのだと感じます。

この二年間には、楽しいこともあれば、うまくいかないこともありました。ラジコンの故障に頭を悩ませた日もあれば、思いがけず子どもの言葉に胸を打たれた日もありました。それでも続けてこられたのは、子どもたちの笑顔が確かにそこにあったからです。

続けてきた時間は決して短くはありません。しかし、子どもたちの未来を考えれば、まだほんの入り口にすぎません。これから先も、安心して「また来てくれる」と思ってもらえる存在であり続けたい。二年の歩みを土台に、さらに確かな未来につなげていきたいと願っています。そして次回は、その未来像について、少し詳しくお話して

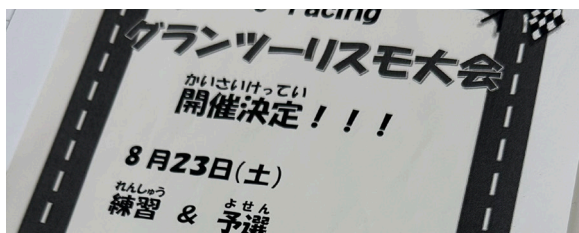
ければと思います。



写真提供：フォーミュラ Enjoy 協会



「かたわら」公式
<https://katawara.fun/>



先生方にはこのような告知文で参加者を募集して貰ったり、賞品をご用意いただいたりとたくさんのサポートをいただきながら、無事大会を開催することができました。

豊田 佳明(とよたよしあき)

自動車 / モータースポーツを通じて、こどもたちのかたわらに立ち続ける活動「かたわら」の代表。ベンチャー企業、その後 1 部上場企業で IT エンジニアとして過ごし、中小と大企業の醍醐味を勉強する。独立後は映像制作を生業とし、元ネットワークエンジニアの強みを活かしネット上でのライブ配信も得意とする。

ウェルビーイングを実現するための活動を続けながら、三重県鈴鹿市の K&G レーシング様にて、Formula Enjoy レース出場に向けて目下練習中。



<https://katawara.fun>



概要

「かたわら」は、小さな手がハンドルを握る瞬間に、世界が広がる奇跡を信じています。私たちは、児童養護施設の子どもたちに、モータースポーツを通じて無限の可能性を感じてもらうためのプロジェクトです。子どもたちに贈るのは、ただのゲームではなく、人生のレースを乗り越える勇気と喜びの時間です。

疾風のように駆け抜ける子どもたちの笑顔が、私たち「かたわら」の原動力です。児童養護施設での毎月の集まりは、ただの遊びではありません。それは、心の扉を開く鍵となる貴重な時間です。一緒に、子どもたちの心に共鳴する冒険を始めませんか？

目を輝かせる子どもたちが、一斉に画面に集まり、レースの世界に飛び込んでいくその瞬間を想像してみてください。

私たち「かたわら」の活動は、そんな心躍る体験を、児童養護施設の子どもたちに毎月届けています。この小さなイベントが、彼らの日常に色を加え、新しい夢を描くきっかけになることを願っています。

世の中には、こんなにも心を弾ませる瞬間があるんだと、子どもたちに実感してもらいたいです。そして、彼らが自分自身という存在を、この世界で確かなものとして受け入れる手助けができれば、それは、私たちにとって最も大きな報酬になります。

スタッフ募集

「かたわら」では、子どもたちの心に光を灯す活動を一緒に創り上げる仲間を探しています。

あなたの温かい手が、子どもたちの未来に希望の光となります。共に、彼らの生きる力を育む事業に参加しませんか？



寄付のお願い

一人ひとりの支援が、子どもたちの未来のページを明るく照らします。ご寄付は、ただの支援ではありません。それは、子どもたちが自分の道を見つけ、歩んでいくための、愛と信頼の証です。私たち「かたわら」と共に、子どもたちに新しい希望の章を開くお手伝いをしていただけませんか？詳しい方法はホームページをご覧ください。また、以下のQRコードからもご寄付いただけます。ご寄付をいただいた方には、定期的に活動報告のニュースレターをお送りいたします。



公式 WEB



500円寄付する